

短歌 (投稿順)

変異するコロナウイルスこの夏も流行の兆し心配ニュース
ただ独り助けの来ない暗闇で君は戦う君と戦う
素麺をひと口すすりふと思ふ来夏はどんな夏が来るかと
なんなんだ熱波真夏日線状降雨大好き祖国負けない母国
夏休みもすこやかであれむくげ咲く下陰に聞く児童の放送
翔平君日々のテレビのニュースあり時代を作る一人となるか
連日の暑さ味方に搾る鰯で蒸かす饅頭素朴さが好き
敵かな木立の中の参道を三峰講の人等と登る
お神輿を担ぐ子供の声聞けば大人も負けずに「おいさ、おいさ」と
今の世は皆幸福か新札の渋沢翁は尋ねるごとし
妹の分もと戦い阿部選手連覇のメダル金に輝く
早朝の蜂は受粉に精を出し目を凝らしつつ吾は胡瓜採る
戦中の日の丸弁当を想ひつつ真夏日を背に梅を干したり
受験生いつも心に重しあり伸るか反るかかの人生の岐路
山百合のおう坂道登りきて経の声のみ静寂の寺
萬屋の獅童の思い注がれし幼き演技胸を打つなり

上日野沢 四方田利男
皆野 石原 達也
下田野 新井 節子
皆野 戸塚喜久雄
三沢 眞下 杏子
皆野 根岸 詩子
皆野 引間 万亀
皆野 萩原 初恵
皆野 大澤 貴夫
皆野 打木 昭廣
下日野沢 浅見 豊子
三沢 新井 民子
三沢 新井 叶子
皆野 太幡琉美花
国神 藤原マキ子
皆野 村田ハツ代

俳句 榎本順江 選 投稿数 18 句

夏芝居奈落といふも浅かりし 皆野 櫻井 早苗
(評)奈落とは底なしの地獄とか。しかし芝居の奈落は舞台の床下にあり、回り舞台やセリ出しの装置を操作する場所。演技の様子を見ながらの奈落は思いのほか浅い所にあるのです。演目や役者ばかりでなく、奈落まで思う作者は芝居通かも。夏の日を大いに楽しめたことでしょうか。二句目、激しい雷雨が大暴れです。屋根や地をたたく雨音と雷の激しさを怖さの中の観察、濁音(ガ・ザ・ダ・バ行)と聞き分けた表現は見事です。雷雨の去った後の涼しい風、存分に浸ったことでしょうか。三句目、今日は満席の町営バス、多分リュックを背負った人達と思います。登山か札所か、行先を想像しながら見送る人達、外は蝉時雨、バスの中は楽しい人時雨ですね。

濁音を叩きつけ往く雷雨かな 皆野 太幡琉美花
灯明の火先あやしき霊祭 三沢 新井 叶子
満席の町営バス行く蝉時雨 国神 赤木圭一郎
時経つも常忘れまじ原爆忌 皆野 根岸 詩子
みんな祈りの尽きぬ月迎う 三沢 眞下 杏子
皆野 鳥 弘
図書館の写真直視す原爆忌 三沢 新井 民子
カナカナや晩酌に陽はまだ高き 皆野 戸塚喜久雄
幾層の空の向こうの赤とんぼ 皆野 石原 達也
神事終えそろいの絆纏御旅所へ 国神 藤原マキ子